今日の自信を世界に繋げるまちづくり
～笑顔！個性！輝かせる！～

Urban development that connects today’s confidence to the world
～Smile! Personality! Shining!～

グループ名：ブルー・フィールド
学生氏名：中村　春陽，並木　恵子，相澤　真耶花，川口　莉生
指導教員　　青野　健作

創価女子短期大学　国際ビジネス学科　青野ゼミナール

キーワード：発達障害，不登校，インクルーシブ社会，Z 世代

１．　現状分析

近年，「多様性」という言葉が多く使われるようになった。デジタルネイティブの「Z 世代」は，ジェンダー問題や教育，働き方など昭和時代の厳しい風習を押し付けないでほしいという思いが強い。教育現場においても，「自分のできることは他の人もできる」という横並びの固定概念もあったが，20 年ほど前より，「発達障害」という言葉が日本の教育現場で用いられるようになり，特性のある子どもたちが差別を受けることがあった。他方で，多様化が叫ばれるようになった昨今，発達「障害」というネーミングに疑問が持たれるようになり，一つの「個性」として捉える考え方が徐々に普及しつつある。他方で，アメリカでは，発達障害や「グレーゾーン」と呼ばれる子どもたちは，いじめを受けやすいという統計も示されている（下記図表参照）。

**発達障害の子どもは
いじめられやすいか？**

	いじめられた経験	いじめた経験	仲間はずれにされた経験
定型発達(n=73)	8.5%	7.0%	8.6%
自閉症(n=32)	29.0%*	6.5%	42.9%*
ADHD(n=100)	29.2%*	12.5%	27.6%*
学習障害(n=34)	24.2%*	30.3%*	18.2%
その他の精神障害(n=33)	21.2%	12.9%	21.2%

* 統計的に有意であることを示す

Twyman KA. et al. Bullying and Ostracism Experiences in Children with Special Health Care Needs. J Dev Behav Pediatr 31:1-8, 2010

八王子市では，医療機関や「八王子市子育て応援サイト」，「こぐま学習塾」，市役所の相談窓口など，発達障害で困る本人・家族に対応した場所はある。しかしながら，いずれも困った人が相談を受ける場所として機能するものの，「発達障害」への社会的イメージを変えていくことにまで繋がっていないと思われる。

２．提案

上記１．に既述したような問題意識に基づいて，本提案では「発達障害」への偏見や差別をなくすための啓発活動を提案する。

① インスタライブ
② YouTube 動画による啓発
③ 教育・家庭の実践報告の共有
④ 対面・オンラインセミナー

３．具体的な提案内容

上記提案の具体的な内容は，下記の通り。

① インスタライブ:スマホが必須となった現代において，家事や育児で時間がない中，どのようにして時間を確保することができるか，時間の効率性が非常に大事な子育て世代がいる。この世代では，Instagram は日常であり，活用方法は熟知されている。Instagram 上のインスタラ

イブを用いて，専門家や教師，親による意見交換・セミナー・パネルディスカッションを行うことで，共感の輪を広げることが期待される。

② YouTube 動画による啓発：個人が誰にも邪魔されずに自分のペースで視聴することができる YouTube の利点を活かして，発達障害の現実の苦闘などを表現した啓発動画の作成をする。独自の公式チャンネル，若しくは八王子市の公式チャンネルを活用して，発達障害で困った本人や家族に向けて，ケーススタディができるように「サクセスストーリー」など勇気や希望を与えるようなリアルを届ける内容とする。

③ 教育・家庭の実践報告の共有：発達障害を「障害」と見なさず，インクルーシブな教育を行った好事例を様々な媒体にまとめ，市民にも共有する（①や②とも連動して共有したり，書籍等の出版物を作り，学術的にも実践的にも有用な実践報告集を制作する。

④ 対面・オンランセミナー：発達障害で苦しんでいる人たちの中には，実際に聞いてもらいたい，話をしたい，意見交換しながら分かりあいたいなどの要望もあり得る。このようなニーズには SNS の媒体では無く，対面及びオンラインを併用しながら，セミナーを開催することでネットワークづくりにも活かされる。

4．提案の効果

本提案を通じて，「発達障害」への悪いイメージを変えていく契機になると考える。確かに，日本では「神経発達症」という名称に公式に変更されているのは事実である。ただし，「名称」が変更されていても，社会のイメージは簡単には変更されることは難しい。約 20 年前に「発達障害」という言葉が普及して今日に至るまで，教育現場を始め様々な場所で，本人及びその周囲は現実に困っていたのである。それは正しい認識ができておらず，悪いイメージが先行していたことも一因として挙げられよう。したがって，本提案を通じて，社会全体のイメージを変えていくムーブメントになるとともに，いじめや不登校をなくしたり，家庭のサポートがしやすくなるなど，周囲のインクルーシブな観点での理解が深まる効果が大いに期待される。デジタルネイティブがこれから増えていく世の中だからこそ，現代に合った対策として効果があると考える。

5．おわりに

本提案では，発達障害で悩んでいる人たちに手を差し伸べる環境を作り，動画等の SNS を活用することで従来以上の理解を深めることを目的とする。そして，社会全体が発達障害への偏見をなくし，誰一人取り残さない社会を構築していくための普及啓発活動が本提案の骨子である。

八王子市では，令和 5 年度からスタートする基本計画「八王子市未来デザイン 2040」においても，特別支援教育に関する取り組みが掲げられている。今後，益々「多様性」がキーワードになる現代社会において，本提案を通して，子ども一人ひとりの教育的ニーズに対して良い効果をもたらすものであると強く確信する。

6．参考文献

八王子市「第五次特別支援教育推進計画」
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kyoiku/003/003/006/p004733_d/fil/keikaku5.pdf

八王子市すくすくてくてく子育て応援サイト
https://kosodate.city.hachioji.tokyo.jp/index.html

発達障害の子どもといじめ
https://www.blog.crn.or.jp/chief2/01/26.html

八王子の発達障害のお子様向けの塾こぐま学習室
https://koguma-eclat.com/

東京都発達障害者支援センター
http://www.tosca-net.com/